

健康商談室

認知症の基礎知識⑤

我们在上一期里为大家介绍了“如何预防认知症”；而本期，我们打算谈一下“认知症的症状”。

关于认知症的症状

认知症的症状，可以分为核心症状（一定会出现的症状）和与此相伴的边缘症状（不一定出现的症状）的两种。

核心症状（肯定会出现的症状）

◆被称为核心症状的，都是些什么样的症状呢？

被称为核心症状的，主要是指“记忆障碍”和“判断能力退化”等一定会出现的症状。

・记忆障碍→反复地说、或是问同一件事情，东西忘记收拾或是忘记把东西搁在哪儿的情况很明显。刚刚发生的事情就会忘记。要么忘关水龙头要么忘关煤气开关。

・意识能力障碍→指无法了解现在是什么时候，这儿是什么地方这种状态。

・判断能力退化→在寒冷的天气里，穿薄衣外出；相反，即使盛夏季节也穿着毛衣。

边缘症状（不一定出现的症状）

◆被称为边缘症状的，都是些什么样的症状呢？

边缘症状因人而异，有的人容易发火，有的人容易感到不安，还有的人会做出某些异常举动。

健康相談室

認知症の基礎知識⑤

前号は「認知症の予防」を扱いましたが、今号では「認知症の症状」について紹介します。

認知症の症状について

認知症の症状は中心となる症状（必ずみられる症状）と、それに伴って起こる周辺症状（必ずみられるとは限らない症状）に分けられます。

中心となる症状（必ずみられる症状）

◆中心となる症状には、どんなものがあるの？

中心となる症状とは「記憶障害」や「判断力の低下」などで、必ずみられる症状です。

・記憶障害→同じことを言ったり聞いたりする。しまい忘れや置き忘れが目立つ。直前のことも忘れてしまう。蛇口やガス栓の閉め忘れ。

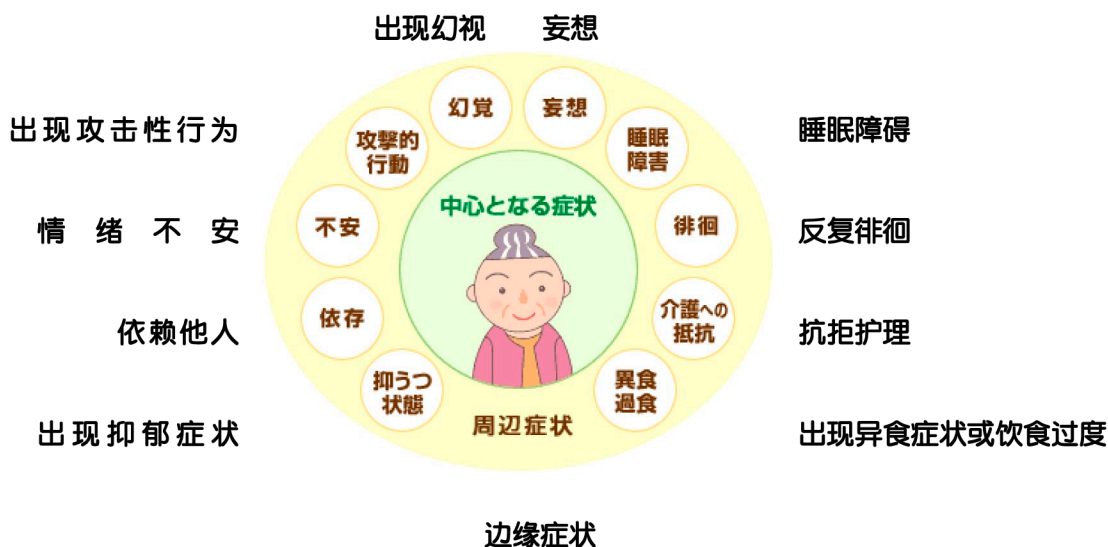
・見当識障害→今が、いつなのか、ここはどんなのか、わからなくなる状態。

・判断力の低下→寒くても薄着のまま外に出る。真夏でもセーターを着ている。

周辺症状（必ずみられるとは限らない症状）

◆周辺症状には、どんなものがあるの？

周辺症状は人によって差があり、怒りっぽくなったり、不安になったり、異常な行動がみられたりすることがあります。



・妄想→患者往往自己忘了收拾或忘了把钱包或银行存折放哪儿了，却认为有人为了使自己不痛快，恶意地把钱包或存折藏了起来，生出“被盗妄想”。此类妄想，往往把身边的家人当作怀疑对象。此外，还有“儿媳妇在饭里下了毒”之类的被害妄想及“我丈夫那儿来了女人”之类的嫉妒妄想等。

・出现幻视→跟幻听相比，认知症患者往往出现幻视的情况比较多，“看呀，孩子们不是来了吗？”“刚进来几个男人。”等情况常常发生。

・情绪不安→尽管患者自身并无法完全认识到自己罹患了阿尔兹海默氏认知症，但是迄今为止能够做到的事情却无法做到。跟以前相比，患者日益健忘的情况增多，便会出现不安及焦躁情绪，同时，患者往往借助妄想来应对其内心的不安及焦躁情绪。

・依赖他人→由于心怀不安及焦躁，所以有时依赖他人的倾向变得很强。即便只是一个小时，家人要是不在身边，就会变得不知所措。因此常常会出现跟在家人身后寸步不离的情况。

・四处徘徊→认知症的初期症状是，记不住最近走过的某条新路，可是随着认知症的发展，回家的路等自己十分熟悉的路线，也会忘掉从而迷路、走丢。严重时，会完全不知道自己要去哪儿，单纯反复地在一处徘徊。这种情况多出现在阿尔兹海默氏认知症患者身上，而脑血管性认知症患者并不常见。

・攻击性行为→往往发生于在对患者的行为进行提醒、制止，以及在帮助患者穿衣或洗澡、没有向患者本人解释的情况下。大多数患者在感到他人要对自己进行束缚时，便爆发不满。另外，在幻听、幻视中也会诱发患者产生攻击性行为。

・睡眠障碍→随着认知症的发展，患者会出现夜间失眠，白天打盹儿的倾向。

・抗拒护理→罹患认知症的人，大多不愿意洗

・妄想→^{もうそう}しまい忘れたり、置き忘れたりした財布や通帳を誰かが盗んだ、自分に嫌がらせをするために隠したという「もの盗られ妄想」の形をとることが多い。このような妄想は、最も身近な家族が対象になることが多い。この他に「嫁がごはんに毒を入れている」という被害妄想や、「主人の所に女が来ている」といった嫉妬妄想などということもあります。

・幻覚→^{げんかく}認知症では^{げんちょう}幻聴よりも^{げんし}幻視が多い。「ほら、そこに子供たちが来ているじゃないか。」「今、男の人たちが何人か入ってきたのよ」などといったことがしばしば見られることもあります。

・不安→^{あふん}自分がアルツハイマー型認知症であるという完全な病識を持つことはありませんが、今までできたことができなくなります。今までよりもの忘れがひどくなってきているという病感があることは珍しくなく、不安や焦燥などの症状が出現します。また、不安や焦燥に対して防衛的な反応として妄想がみられることもあります。

・依存→^{いぞん}不安や焦燥のために、^{ぎやく}逆に依存的な傾向が強まることがあります。一時間でも一人になると落ち着かなくなり、常に家族の後ろをついて回るといった行動があらわれることがあります。

・徘徊→^{はいかい}認知症の初期には、新たに^{あら}通い始めた^{かよ}所への^{はじ}道順を^あ覚えられない程度ですが、認知症の進行に伴い、自分の家への道など^{しんこう}熟知しているはずの^{ともな}場所で^{いえ}迷い、^い行方^い不明^いになったりします。^{じゅうしやう}重症になると、^ままったく^お無目的^もであったり、^ま常^ま同^ま的な^ま歩^ま行^まとしか^ま思^まえない^ま徘徊が多くなります。アルツハイマー型認知症に多く、^{のうけつかんせい}脳血管性認知症では多くはありません。

澡，而是借口“明天洗。”“我感冒了。”等理由来推脱，抵触他人对自己的护理。据说这是由于患者苦于穿衣、脱衣；以及自身运动功能下降和条件反射迟钝而产生的不安、以及对水的恐惧感等原因。

・出现异食症状或饮食过度→出现刚吃了饭又嚷嚷“肚子饿了”的饮食过度症状，以及将不能吃的东西塞到嘴里咀嚼的异食症状。患者会将卫生纸、肥皂、不冻液等东西塞进嘴里吃。

・出现抑郁症状→患者会出现失去意欲的情况（什么都不想做）及思考障碍（反应迟钝）等类似忧郁症的情况。忧郁症伴随的是心情及感情障碍（伤感、寂寞及自责等情绪），但是认知症的必要条件是同时出现抑郁的症状。

[未完待续]

摘自《认知症之基础知识》（关于认知症的网页 www.e-65.net）



・攻撃的行動→特に、行動を注意・制止する時や、着衣や入浴の介助の際に十分に本人に説明をしなかつたりするとおきやすい。型にはめようとする事で不満が爆発するということが少なくない。また、幻覚や妄想から二次的に生じる場合もあります。

・睡眠障害→認知症の進行とともに、夜間の不眠、日中のうたた寝が増加する傾向にあります。

・介護への抵抗→認知症の方の多くは入浴を嫌がる人が多いようです。「明日はいる」「風邪をひいている」などと口実をつけ、介護に抵抗したり、衣服の着脱が苦手であること、浴室の床でころぶかもしれないことなど、運動機能や条件反射が鈍くなっているための不安、水への潜在的な恐怖感などから生じると考えられます。

・異食・過食→食事をしても「お腹がすいた」と訴える過食がみられたり、食べられないものを口に入れる、異食がみられることがあります。口に入れるのは、ティッシュペーパー、石けん、アイスノンの中身までさまざまです。

・抑うつ状態→意欲の低下（何もしたくなくなる）や、思考の障害（思考が遅くなる）といった、うつ病と似た症状があらわれることがあります。うつ病では、気分や感情の障害（かなしさや寂しさ、自責感といったもの）を訴えることがあるが、認知症では抑うつ状態が同時にみられなければあまり訴えられません。[続く]

「認知症の基礎知識」（認知症を知るホームページ www.e-65.net）より抜粋